

64 聖マタイの召命・父なる神の点光

イエスが、《眼鏡の男》が呼び出し対象者と最終判断した理由

2024

真鍋友範

1 カラヴァッジョは、なぜ、《父なる神からの点光を描いたのか。》

* (赤丸部分)



《聖マタイの召命》 1599-1600 カラヴァッジョ



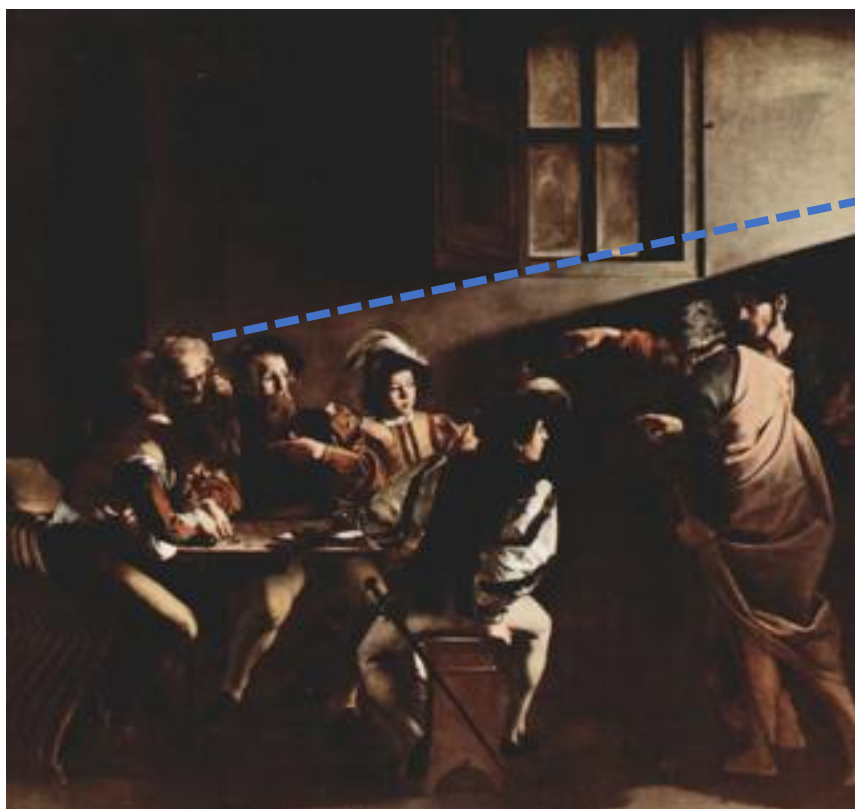
髭の男の2段階の質問動作の後、イエスは、3段階の回答動作で答えようとした。

ここで疑問なのは、何を持ってイエスは髭の収税人がマタイであると判断できたのか、だ。

この疑問は、カラヴァッジョの次の描写で解明される。

髭の男がイエスに質問した直後、それまで淡い光が差し込んでいた右側側面の高窓が、瞬間的に明るくなると同時に、眼鏡の男の額に強い光の点光が照射された。

これは、父なる神からの啓示の点光であった。イエスはその点光に導かれ、しっかりマタイが対象人物であると認識し、召命を完結した。



* 《窓の内扉の影》は、偶然描かれたのではなく、外部からの父なる神からの特別な光を導く補助線としての役割を持っている。

結論

カラヴァッジョは、【ドラマチックな召命画面をサポートする為、最大の演出】

効果を狙って、マタイの額に、父なる神から注がれる天光を描いた】のだ。

無駄なものなど、描かない為、簡素な室内ではあるが、重要な要素は確実に描き込んでいる。

このような、繊細な描写に拘るカラヴァッジョは天才画家だろう。

リアリズムの枠を超越した当時最強の宗教画家であったと賞賛できる。



根拠としたカルロ・カルヴェッリの作品《受胎告知》

* マリアの額には、父なる神からの啓示の光が注がれて、受胎告知に現われた大天使たちを導いている。